

令和7年度 第20回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年 11 月 1 日(土) 10:00～

場 所:松任コミュニティセンター

参加者:10 名



- ◆ 地域コミュニティ組織の会長は責任が重く、後継者の探し方によい方法があれば取り入れたいです
- ◆ 多くの組織があり、地域で担う役職を兼任することが多くなっているのが負担です

(参加者)

最初に組織を立ち上げたときは初めてのことであったので、まずは町会長が引き継ぎながら、新しい組織づくりを進めていこうという形で始まりました。

昨年、変化を感じたのは、松任まちづくり協議会(地域コミュニティ組織)会長の名前で予算が一括で地域コミュニティ推進交付金として交付されるようになったことです。これまでは生涯学習課から公民館に予算が下りてきていたため、会長名義になることで責任の重さを強く感じました。

私自身、交通安全協会の松任支部長や社会福祉協議会の副会長など、いくつかの役職を務めています。小さな町では、複数の役職を兼ねている人が多いのが実情です。なるべく各種団体とつながりを持ちながら活動を進めていますが、どの団体も次の担い手の確保が難しくなっています。退職年齢も上がっている中で、責任の重い業務を担ってくれる人をどう探すか、悩んでいます。よい方法があれば取り入れたいと考えています。

(参加者)

子ども会でも同じように課題だと感じています。3 年前に PTA に入ったとき、役職の数が多すぎることを課題の一つとして考えました。いろいろな方からお願いされ、2 つ、3 つ、4 つと役職を掛け持ちしている人もいるのが現状です。

子ども会だけでなく、連絡協議会など上位の部会も、結局は持ち回りになってしまっています。人材を探すことも必要ですが、今の人数に合わせて役職そのものを見直すことも必要だと思います。PTA では広報委員会などの各委員会と常任委員会があり、さらに PTA の役員、学級委員、地区委員も含めると、約 60 の役職が必要になります。毎年これだけの役職を担う人を探すのは難しく、子どもが中学生になっても PTA に関わっている人もいます。現状を無理に維持するのではなく、現状に合わせて対応していくことが必要だと思います。PTA 連合会などで役職を減らすような意見も出ますが、前年踏襲が基本になってしまっていて、あまり変わっていません。

(参加者)

交通安全協会も同じです。減らせないかという話をしても、県や国の枠組みが前提にあり、国からの指示があるのでなくせないと言われます。

先日、松任小学校で自転車競技の行事を行いました。その際は白山署の方が動いて人員を集めてくださいました。交通安全協会も応援に入りましたが、1 週間前くらいに急に依頼があり、準備を進めたものの人手は足りない状況でした。

複数の役職をしていると各種団体の動きは把握できますが、もし減らせるものがあるとなれば、市から依頼されている廃棄物に関する役職などは、町会長が兼任できるのではないかと思います。設置や修理の手続き、申請は最終的に町会長が行うことが多いので、簡略化してもよいのではないかと個人的には考えています。

白山市、野々市市、川北町はごみ袋が無料で、市の取り組みのおかげで助かっています。町内会として協力していくのはもちろんですが、役職としては減らせる余地があるのではないのでしょうか。

(市長)

行政からお願いしているものについては、私たちも見直しを考えていかなければなりません。一方で、PTA のように自治活動として行っている役職については、行政としては干渉しづらい部分があります。

市からお願いしています廃棄物対策推進員については、条例に基づいて、ごみの減量化、資源化の推進のために委嘱しているものです。町内会長が兼任することは差し支えありませんので、各町内会の実情に応じて選任していただければと思います。

PTA については、例えば岡山県では県 PTA 連合会を解散した例もあります。各学校の立場でも、PTA への入会についてさまざまな意見が出ています。みんなで作ってきた仕組みほど、やめる、なくすという判断は難しくなります。

人口が減っていく中で役回りが多いのは大変だと思います。最近では消防団も欠員が出て補充が難しく、苦勞されていると聞きます。民生委員、主任児童委員、交通安全推進隊も同じような状況だと聞いています。

(参加者)

私の町内会では80代の交通安全推進隊員もいます。今はまだ活動が続けていますが、今後のことを考えると難しさを感じています。

◆ リーダーシップを取って地域づくりをしていく人材の不足を感じています

◆ これまでの積み重ねを尊重した組織づくりを考える必要があります

(参加者)

人材不足については、何年も前から感じていました。以前、市の議会だよりに、地区のリーダー的存在となる人を育てるための講習のようなものができないか、と書いたことがあります。

私も複数の役職を兼ねていますが、どの地区に行っても、地域の中心になってリーダーシップをとり、まちづくりを進める人が少しずついなくなってきました。今はまだ何とかありますが、今後はコミュニティの手伝い自体も難しくなる事態が起こるのではないかと考えています。

壮年会でも、どの地区でも同じような話が出ています。最近では、コミュニティの行事に参加していない会もあるようです。本来は中心になって動くべき年代層なので、今からでも各地区のリーダー的人材を育成する仕組みを考えた方がよいのではないかと思います。

(参加者)

私の町会でも、毎年役員を決めるのに四苦八苦している状況です。最近では、町内会そのものをなくしてしまえばよいという意見まで出ています。町内会は任意団体なので、その意見にも一理あると思いますが、私たちの世代としてはとても寂しく感じます。

私たちの世代までは、町内会行事や青壮年会などに多くの人が加入していて、「そろそろ自分の番だ」という意識もありました。しかし、コロナ禍で行事がほとんどなくなったことも重なり、そうした意識が薄れてしまったように感じています。

青壮年会の会長に「行事をもっと増やしてください」と要望するなど、横のつながりを増やす取り組みをしないと、本当に地域が崩れてしまうのではないかと危惧しています。

(参加者)

38町内会がある中で、町会長が1年で交代する町会が半分近くまで増えてきました。2年ほど務めれば勝手が分かりますが、1年で交代すると引き継ぎも難しくなります。

また、「1年さえやればよい」という考えになりやすく、地区への関心や協力が弱まっているように感じます。町会長の任期の短さが、関心度の低下につながっているのかもしれません。町会長会議でも、毎年人が入れ替わるため、同じような質問や議題が繰り返し上がりがちです。

町会の運営や団体活動について、マニュアル化できないかと考えています。各種団体も、それを見れば誰が担当しても進められるような資料を作れないかと思っています。人材は不足していますが、文化祭に

協力してくれる方などはたくさんいらっしゃるので、そのような担い手になり得る人や協力してくれる人が、新しく第一歩を踏み出しやすくなるよう、環境を整えることが大事だと思います。

（市長）

人材不足の問題は、いくつもの地区で課題になっています。白山ろくなどは地区の人数自体が少ないため、特に難しいようです。松任地区は全体で1万4,000人から1万5,000人ほどいらっしゃいますが、町内会によっては苦勞されていると思います。

地域だけでなく、会社などでも募集してもなかなか人が集まらない状況が続いています。有効求人倍率も低下しているようです。また、全国的にも町内会やPTAに、加入しない人が増えていたり、裁判に発展したりという例も聞いています。任意団体は、運営が難しい面があります。

人材不足について、研修などを実施するとなると、地域コミュニティ組織同士だけではなかなか難しいと思います。地域コミュニティ組織の会長会、コミュニティセンター長会などもありますので、引き続き勉強し、そのような機会を考えていきたいと思います。

（参加者）

これまでの流れは、公民館があり、公民館長がいて、町会があり、各種団体がある、という形でした。現在は、その上にまちづくり協議会がある形になっています。

改めてまちづくり協議会の組織づくりを進めると、横のつながりを強くするメリットはありますが、やらなければならないことも増えます。近年は研修などでのワークショップが大変多く、同じようなやり方ばかりに思えます。先日このことについて意見したら、次は地区の自慢を紹介するような企画が出ています。ただ、それが本当に新しく画期的なものになるかは分かりません。

新しい横のつながりももちろん大事ですが、これまでの組織の積み重ねもありますので、白山市に合った組織づくりをきちんと考えなければならないということです。

◆ 大規模なものは難しくとも、各団体が自主的に連携して工夫しながら事業を実施しています

（市長）

そのような状況の中で地域づくりをどうしていくかですが、何もしないでいると課題はどんどん膨らんでいきますので、何らかの対処が必要です。

例えば、社会体育大会は松任地区では今まったく実施していない状況でしょうか。

（参加者）

実施していません。他地区ではどこも実施していると思いますが、できていないのは松任地区だけかもしれません。

開催すれば参加者は多いと思うのですが、コロナでいったん中止になった後、コロナ明けにノウハウが残っておらず、再開が難しい状況になっています。

（参加者）

審判委員や道具係などを担っていた方は高齢の方々でしたが、準備や段取りをしっかりと進めていました。コロナ後は後任を世話する人を見つけるのが大変です。

各町内会で協力して進める案もありましたが、38 町内会のうち体育祭に参加しているのは半分くらいだったので、それも難しくなりました。町内会単位ではなく「個人としてなら参加できる」という人もいましたが、複数人で参加する種目もあるため、町内会として参加できないところが増えました。

（参加者）

社会体育大会とは別ですが、町内会で独自に催しを行っている町会もあります。各町会のやり方を聞いてみると、運営はトップダウンではなく、ボトムアップの形にしないと、最近の若い人はなかなかついてこないと思います。

強制するのではなく、自主的に取り組んでもらい、それを支援するような形が望ましいと感じます。もちろん最初は「なぜやらないといけないのか」という反応も出ますが、長く続けることで必要性を感じてもらえればよいと思います。どうしても難しい場合は、組織の構成自体から見直す必要があるのかもしれませんが。

（参加者）

壮年会と女性の会で、ニューススポーツの取り組みをこの 3 年ほど行っています。見学して、「自分たちの会でも取り入れたい」と言ってくれる老人会などもあります。ほかの団体にも役立つ取り組みを行うことが重要だと考えていますし、楽しい内容であれば皆さんも参加したくなると思います。

社会体育大会は、私も役職で関わっていましたが、仕事が多く大変な面があります。世話をされる方の年齢も上がっていきますし、難しい点も多いです。ただ、参加を希望する人が多いイベントなのも確かです。なくなってしまったのは仕方ない面もあるので、今の状況でできる新しい形を作れないか、現在検討しています。

（市長）

例えばどういった形が検討されていますか。また、参加者については、この競技をやるので各町内会から参加しませんかと募集するような形でしょうか。

（参加者）

競技は、老若男女が参加でき、用具さえあればできるので、モルックなどの室内競技が提案されています。募集については、おっしゃる通り、町内会を通じてという方向にできないか、試験的に進めています。

ほかの競技では、グラウンドゴルフ大会などを各内町会対抗で行っていますが、参加人数は年々減っています。グラウンドゴルフ人口自体は大きく減っていませんが、年齢層が上がり、大会に参加できる会員が減少傾向です。

（市長）

松任地区は人口が一番多い地区ですが、それでも参加しない人が増えているということでしょうか。

（参加者）

規模が大きい分、自分たちが参加しなくても大丈夫だろうという認識が広がっているのかもしれませんが。

◆ 獅子舞など祭りの存在が人をつなぐ役割を果たしています

◆ 意義を教えるのではなく、参加したくなる、参加したら良くなるような形を作りたいです

（参加者）

以前、保護者の若いお母さんが「八ツ矢町は行事がたくさんあって、近所の人と顔を合わせる機会が多くていいですね」と言ってくれました。町の獅子舞の大回りや盆踊りは、1 か月ほどかけて練習します。そうするとつながりが増えて人となりも分かってきますので、祭りの存在は重要だと考えています。

（市長）

お祭りでは、石同新町も盛んですよね。

（参加者）

石同新町にも獅子舞の保存会があり、八ツ矢町と交互に行っています。巡行のときは、1 か月前くらいから準備して練習します。指導者も必要ですし、参加してくれるお子さんや一般の方も含めて大人数になります。そこで顔を合わせて、別の場でもつながりができたりして、それがきっかけで壮年会に入るといった効果もあります。

（市長）

鶴来地区のほうらい祭りも、なかなか人が集まらない部分があるようです。ただ、例えば祭りに参加した若い人が、そのまま消防団にも入ってもらえるようにするなど、祭りをきっかけに地域の団体の周知や勧誘につなげている例もあります。祭りは、まちづくりにおいて大きな軸の一つになります。

一方で、町内の規模が小さくなって、祭り自体が実施できなくなる地域も出てくると思います。

(参加者)

子どものころからその町にいる人と違い、他の町から松任に来た人は、町内行事や祭りに参加したい人もいますが、参加する意義を感じにくい人も多いと思います。参加することで横のつながりや縦のつながりができることを、よいことだと感じてもらう必要があります。

運営側は熱意を持って活動していますが、町内会活動に入る意義やメリットは、参加して初めて分かることも多いです。だからこそ、上から下へ「意義を教える」のではなく、最初から参加したくなる、参加したら結果的に良くなりそうだと感じられる形を作ることが大事だと思います。

PTA などは、「今までこうだったからこうしよう」という考えをいったん全部外して、例えば PTA 役員を担う人を、保護者が費用を出し合って雇うような形にするのも一つの方法だと思います。お金を出す代わりにしっかり働いてもらい、双方がメリットを感じられると思います。新しいことを一度やってみて、だめなら内容を変えながら試行錯誤していくことが大事だと感じます。

◆ 松任城址公園の樹木の管理について改善していただけますか

(参加者)

参加者が少なくなっている催しの一つに、戦没者慰霊式があります。これは遺族会の方が中心になって取り仕切り、コミュニティセンターが協力する形ですが、年々参加者が減っています。遺族会を担う方々も、子どもの代から孫の代になっており、高齢化が進んでいます。

松任城址公園に忠魂碑がありますが、近くのケヤキの木が大きくなりすぎて剪定ができず、今はコミュニティセンター周辺で慰霊式を行っています。管理は遺族会が担う流れになっていますが、負担がかなり大きい状況です。ほかにも、樹木の根でバスが通る旧 8 号線沿いの歩道が傷むなどの場所もありますが、管理が滞っています。忠魂碑の担当の生活支援課にも連絡をしていますが、状況を改善していただき、戦没者慰霊式がスムーズに、安心して実施できる環境になってほしいと感じています。

(市長)

戦没者慰霊式の件は、先日の議会でもご質問をいただきました。例えば鶴来地域では、戦没者慰霊碑を管理しきれないという理由で、遺族会そのものを解散した例があります。土地は白山市のものですが、石碑は遺族会のもので、遺族会の方々と市で相談しながら、処分などの対応を決めることになります。全国的にも話題になってきているため、対応を検討しています。

松任城址公園のケヤキの木の剪定については、令和8年度に一部の木を剪定する方向で考えています。その際には、木が大きいため県道三日市・松任線を夜間通行止めになるかと思っています。ご理解、ご協力をお願いします。また、その他の木につきましても、状況等を確認のうえ対応していきたいと思っています。

戦没者慰霊式や忠魂碑の扱いについては、管理が難しくなっているため、一か所にまとめる、処分するなど、さまざまな案があります。ただ、遺族会だけで判断するのは難しいので、相談しながら進める必要があると思います。

(参加者)

皆さんの意見を聞き、とても考えさせられました。体制が新しくなったときに、周りに集まってもらうための取り組みを考えていましたが、会員や町民が自発的に参加したい、住み続けたいと感じられる取り組みを作ることが大事だと感じました。

(市長)

本日は、松任地区のさまざまな課題について、多くのお話を伺うことができました。来年以降の取り組みについても検討していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。ありがとうございました。